

機関番号	研究種目番号	応募区分番号	小区分	整理番号
37111	00	0	00000	0000

平成 31 年度 (2019 年度) 基盤研究 (C) (一般) 研究計画調書

平成 XX 年 XX 月 XX 日

入力した内容が反映されています。紙媒体の提出時は、作成日の下の版数表示が**1版以上になっているか確認**してください。

1 版

新規

[illegible]

「希望をする」を選択すると、採択されなかった場合の書面審査（1段階目の審査）等の結果について電子申請システムを通じて確認できます。

※「開示」は応募者のみに対して行われます。

※種目により審査結果の通知は異なりますので、公募要領 P110 を参照してください。

※次年度の学内経費「推奨研究プロジェクト（特定）」に応募される場合は、審査結果の情報が必要となります。

研究組織（研究代表者及び研究分担者）

[illegible]

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査されます。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領109頁参照）を参考にすること。

本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、について具体的かつ明確に記述すること。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

（概要）

本欄には、今回応募する研究計画において何をしようとしているのか、その全体像を明らかにするため、研究計画調書に記載している指示に従って概要を含め記述すること。概要については、10行程度で記述すること。

・審査委員が研究目的を端的に把握できるように、完結にまとめること。次ページ評定要素の箇所を参照。

（本文）

※留意事項：

1. 作成に当たっては、研究計画調書作成・記入要領を必ず確認すること。
2. 本文全体は11ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。
3. 各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。
4. 指示書きで定められた頁数は超えないこと。なお、空白の頁が生じても削除しないこと。
5. 本留意事項（斜体の文章）は、研究計画調書の作成時には削除すること。

（1）～（3）を項目立てして記入する。

・全研究種目、モノクロで印刷され審査員に送付されます。印刷した際、内容が不鮮明とならないようご注意ください！

小見出しや連番を付して、強調したい箇所にはアンダーラインや文字の字体を変えて伝えたいことを理解しやすく・見やすく・読みやすく記述する。

・各年度において成果をどういう風に公表するか検討しておくこと、計画性が高く研究ノウハウを有しているという期待が高まります。

・計画通りに進まない時の対応や、複数の研究者で研究組織を構成する場合は、組織全体としての研究遂行能力や具体的な役割を記入する。（専門外の人でもイメージしやすいので、図版（研究体制の組織図や研究を進めるにあたってのフロー等）を用いて記述する。

【 1 研究目的、研究方法など（つづき）】

1 ページ目の続きを記入してください。
 本項目欄の 8～9 割程度を埋められるように、具体的に記述してください。

評価要素について

評価基準（基盤研究、若手研究）

〔評価要素〕

（1）研究課題の学術的重要性

- ・学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。
- ・研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか。
- ・本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか。

（2）研究方法の妥当性

- ・研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか。
- ・研究目的を達成するための準備状況は適切であるか。

（3）研究遂行能力及び研究環境の適切性

- ・これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。
- ・研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。

〔その他の評価項目〕

研究経費の妥当性

平成 31 年度に係る「審査及び評価に関する規程」については 10 月中旬頃に JSPS ホームページにて公開されます。

【 1 研究目的、研究方法など（つづき）】

2 本研究の着想に至った経緯など

本欄には、(1)本研究の着想に至った経緯と準備状況、(2)関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、について1頁以内で記述すること。

本欄には、審査委員が今回応募する研究計画についてより理解を深めるため、当該研究の特色について、研究計画調書に記載している指示に従って記述すること。

3 応募者の研究遂行能力及び研究環境

本欄には応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

研究計画調書の指示書きに従って記入すること。

「(1)これまでの研究活動」は本研究計画の実行可能性を示すよう、本研究計画に関連した研究活動を中心に記述すること。研究分担者がいる場合には、その想定される役割に関連した研究活動を中心に記述すること。

記述に当たっては、研究業績（論文、著書、産業財産権、招待講演等）を網羅的に記載するのではなく、本研究計画の実行可能性を説明するとともに、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。（投稿中の論文を記載する場合は、掲載が決定しているものに限る。）

研究業績を記載する場合は、当該発表業績を同定するに十分な情報を記載すること。例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著者の場合はその書誌情報、など。

・産前産後の休暇及び育児休業の取得や、介護休暇の取得など、研究を中断していた期間がある場合は、その事情を本欄に記述してもよい。

【3 応募者の研究遂行能力及び研究環境（つづき）】

4 人権の保護及び法令等の遵守への対応（公募要領4頁参照）

本欄には、本研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を、1頁以内で記述すること。

個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト 遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

該当しない場合には、その旨記述すること。

本研究は〇〇なので、倫理委員会等の承認が必要な研究計画には該当しない。

・「1 研究目的、研究方法など」欄に記述した内容と照らして記述してください。対応が必要な研究内容で本欄が未記入の場合、審査委員によってはマイナス評価になります。研究計画を遂行するにあたって「人権の保護及び法令等の遵守への対応」でどのような対策と措置を講じるのかを詳細に記述してください。

（相手の同意やコンセンサスを必要とする研究課題・ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組み換え等の研究課題 など）

・該当しない場合には、必ず「本研究は〇〇なので該当なし」等と記述してください。

5 研究計画最終年度前年度応募を行う場合の記述事項（該当者は必ず記述すること（公募要領 24 頁参照））

本欄には、本研究の研究代表者が行っている、平成 31 年度が最終年度に当たる継続研究課題の当初研究計画、その研究によって得られた新たな知見等の研究成果を記述するとともに、当該研究の進展を踏まえ、本研究を前年度応募する理由（研究の展開状況、経費の必要性等）を 1 頁以内記述すること。

該当しない場合は記述欄を削除することなく、空欄のまま提出すること。

研究種目名	課題番号	研究課題名	研究期間
			平成 年 度～平成 31 年度

当初研究計画及び研究成果

「研究計画最終年度前年度に応募」として新規に応募する場合（公募要領 P24 参照）は、研究計画調書に記載している指示に従い、各項目について 10 行程度で記述すること。該当しない場合は記述欄を削除することなく、空欄のまま提出すること。

前年度応募する理由

[illegible]

設備備品費、消耗品費の必要性

旅費、人件費・謝金、その他の必要性

研究費の応募・受入等の状況
(1) 応募中の研究費

基盤研究 (C) (一般) 11 - ()

研究者氏名					
資金制度・研究費名 (研究期間・配分機関等名)	研究課題名 (研究代表者氏名)	役割	平成 31 年度の 研究経費 (期間全体の額)	エフ ォ ー ト (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて 本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額)
【本応募研究課題】 基盤研究 (C) (一般) (H31～H33)	〇〇〇〇 今回応募する課題については、研究組織欄に入力した金額が自動表示	代表	800 (2,780) (千円)	20	研究課題全体の直接経費の額 (研究代表者の使用予定額と研究分担者の使用予定額を合わせた額) を入力。 (総額 4,280 千円)
特別推進研究 (H31～H33)	△△△	代表	50,000 (250,000) (千円)	—	▼▼▼という点で、本申請課題とは異なり、当該研究課題では■■■を目的とする。 (総額 500,000 千円)
基盤研究 (B) (H31～H34)	□□□□□ (福岡 花子)	分担	500 (1,000) (千円)	5	〇〇〇という点で、本申請課題とは異なり、当該研究課題では■■■を目的とする。 重複応募が可能であっても、重複して採択されることのない種目を記載する場合は、「—」を入力。
〇〇プログラム (H31～H32・ ◇◇大学)	△△△△△	代表	20,000 (50,000) (千円)	30	×××という点で、本申請課題とは異なり、当該研究課題では△△△を目的とする。 (総額 100,000 千円)
「役割」が、代表の場合 ・ 上段に H31 年度に研究代表者が使用する予定の直接経費の額 (H31 に分担金として配分する額を含まない。応募中のものは応募額) を入力。 ・ 下段に () 書きで研究期間全体の研究代表者が使用する直接経費の総額 (予定額) (研究分担者に配分予定の研究機関全体の直接経費を含まない額) を入力。 「役割」が、分担の場合 ・ 上段に H31 年度に本人が受け入れ自ら使用する分担金の額 (予定額) を入力。 ・ 下段に () 書きで研究期間全体で自ら使用する分担金の総額 (予定額) を入力。					

(2) 受入予定の研究費

基盤研究 (C) (一般) 11- ()

資金制度・研究費名 (研究期間・配分機関等名)	研究課題名 (研究代表者氏名)	役割	平成 31 年度の 研究経費 (期間全体の額)	エフ オ ー ト (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて 本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額)
◎◎助成事業 (H29～H31) (○○機構)	□□□□□	代表	1,000 (4,000)	10	■■■という点で、本申請課題とは異なり、当該研究課題では○○○を目的とする。 (総額 20,000 千円)
◇◇推進費 (H30～H31) (△△△△)	□□□□□ (福岡 花子)	分担	300 (1,200)	5	◇◇◇という点で、本申請課題とは異なり、当該研究課題では△△△を目的とする。
特に名称のない資金等は、当該資金の内容がわかるような名称を入力。 応募時点で H31 年度の正確な配分額が分からない場合も、おおよその金額を入力。					
「エフオートとは」 研究者の年間の全仕事時間を 100%とした場合、そのうち当該研究実施に必要となる時間の配分率 (%) を指します。 なお、「全仕事時間」とは研究活動の時間のみを指すのではなく、教育活動等を含めた実質的な全仕事時間を指します。 (当該研究課題にかける情熱度ではありません)					
教育活動などのエフオート、他研究者の科研費の研究協力者として参画する研究課題に係るエフオートは、この欄に含まれ、自動で算出されます。					
エフオートの合計が 100%を超えた場合はエラーが表示されますので、修正してください。					
(3) その他の活動				30	
合 計				100 (%)	